

| | | | |
|----|--------|------|------|
| 品名 | 液化石油ガス | 国連番号 | 1075 |
|----|--------|------|------|

該当法規・危険有害性

| 消 防 法 | | | | | | 毒 物 及 び 劇 物 取 締 法 | | | 高 圧 ガ ス 保 安 法 | | 火 薬 類 取 締 法 | | | 道 路 法 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------------|-----|-----|---------------|-------------|-------------|-----|-----|-------|----------------------------------|---|
| 類 別 | | | | | | 品 名 (法別表) | 毒 物 | 劇 物 | 特 定 毒 物 | 一 般 高 圧 ガ ス | 液 化 石 油 ガ ス | 火 薬 | 爆 薬 | 火 工 品 | 施行法令 第 19 条 の 12, 13 に 該 当 | |
| 第 1 類 | 第 2 類 | 第 3 類 | 第 4 類 | 第 5 類 | 第 6 類 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | ● | | | | | ● |

| 特 性 | 危 険 性 | | | | 有 害 性 | | | | 環 境 汚 染 性 | | 性 状 | | | |
|-----|-------|-----|-----|-----|-------------|----------------|---------|---------------------|--------------|--------|--------|--------|-------------|--|
| | 禁水性 | 爆発性 | 可燃性 | 支燃性 | 有 毒 ガ ス 発 生 | | | 目・皮膚に 触れると 危険 | 河川への 流入注意 | 固 体 | 液 体 | 気 体 | 水 溶 性 | |
| | | | | | 常 温 | 加 熱 時 火 災 時 | 水 に 接 触 | | | | | | | |
| | | ● | ● | | | | | ● | | | ● | | | |

事故発生時の応急措置

- ① 車を安全な場所に移動する（人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害にならないように移動し、エンジンを停止し、車止めをする。）
- ② ガス漏洩が発生したら、事故の発生を告げ、消防署及び警察署に連絡し、人々を風上に避難させる。付近の可燃物を遠ざけて、火災の発生を防ぐ。

緊急通報

119（消防署）110（警察署）高速道路等の非常電話

[緊急通報例]

1. いつ ○○時○○分頃
2. どこで ○○市○○地区（国・県・市）道○○線○○付近で
3. なにが 「液化石油ガスが（LPガス）」が
4. どうした 漏れています。漏洩して火災になっています。
5. ケガ人は ケガ人がいます（救急車をお願いします） ケガ人はいません
6. 私の名前は ○○運送会社の○○です

緊急連絡（特に休日・夜間に確実に連絡が取れる部署の電話番号を記入する）

| | |
|------|----------------|
| 荷主会社 | |
| 住所 | |
| 電話 | 平日・昼間 休日・夜間 |

| | |
|------|----------------|
| 運送会社 | |
| 住所 | |
| 電話 | 平日・昼間 休日・夜間 |

一般社団法人

日本LPガス団体協議会・全国高压ガス溶材組合連合会

| | | | |
|----|--------|------|------|
| 品名 | 液化石油ガス | 国連番号 | 1075 |
|----|--------|------|------|

災害拡大防止措置

特記事項

処理剤

- ① ガスの比重は1.5～2.0で、無色、有臭（着臭）である。
- ② 容器の温度は40℃以下で圧力は1.53MPa以下に保つこと。

漏洩・飛散したとき

- ① ガス供給を絶つ。
- ② できる限り車両は風通しのよい安全な場所に移動する。
- ③ 漏洩個所の漏れを止める。
- ④ ロープを用い、危険区域を明示するとともに、付近に火気がないことを確認し、付近の住民に火気使用を中止するよう要請する。

周辺火災のとき

- ① タンクローリー又は容器配送車を安全な場所に移動する。
- ② 移動不可能な場合には、タンクローリー又は容器の周囲に散水し冷却する。

引火・発火したとき

- ① 消防、警察に連絡し、その指揮下にはいる。
- ② ガスの流出を遮断できる場合は、消火器にて消火する。消火器はABC型又はBC型を使用する。
- ③ 散水等により周囲を冷却し延焼防止を図る。

救急措置

- ① 吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸困難な場合は酸素欠乏の措置を行う。
- ② 皮膚に付着した場合（液状の場合）は凍傷の手当てを行う。
- ③ 必要に応じ医師の手当てを受ける。